

## カナダ史点描

# バイキングのカナダ発見

アメリカ大陸に最初に住みついたのは、二、三万年前、すなわち氷河期の終り頃、アジア大陸からベーリング海峡を通じてやってきた、いわゆるインディアンたちの祖先である。

ついで、およそ八千年前には、現在エスキモーと呼ばれている人々が、シベリアから船に乗ってやってきた。

それから何世紀もの時が流れた。そして中世の北欧伝説(サガ)によると、十世紀の終り、すなわちコロンブスが中米のカリブ海の島々(アメリカ大陸ではない)を発見した一四九二年より五百年も前、バイキングが東部カナダに達した。

伝説はこう述べている。時は西暦九八一年の春。まだほの暗いアイスランド東岸の入江から、一艘の船が静かに沖へ漕ぎ出した。乗っていたのは、数人の人を殺したかどでアイスランドにおれなくなったエリック・ラウダ(赤毛のエリック)と彼の部下のバイキングたちである。目的は、北方人によってアイスランドから追われたケルト人やビクト人(バイキングは彼らをウエストマンニと称していた)の住むグリーンランドの南西沿岸。その集落を襲って略奪しようという腹だった。しかし、村にはこわれかけた家の残骸があっただけで、誰も住んでいなかった。赤毛のエリックとその一行は、や

むなくそこでしばらく暮らした後、翌年の春、再び獲物を求めて船を出した。グリーンランドの南端を回って島の西側へ出てみると、対岸に陸地が見えた。そこに行けば自分たちが探していたウエストマンニと彼らの牛がみつかるに違いないと考えていたバイキングたちは、早速船を西へ向けた。——彼らが上陸したのは、おそらくカナダ北方にあるバフィン島のカンバーランド半島であつたろう。

ところが、北極に近いバフィン島には人影はなく、またその寒さはとうてい耐えられるものではなかった。そこで、赤毛のエリックらはヨーロッパで珍重されていたあざらしや北極熊、せいうちなどのキバ、皮、毛皮などを船に積み込んでアイスランドへ帰った。そして当時「大アイランド島」と呼ばれていた島の南部に自らの王国を作ろうと夢見た赤毛のエリックは、その島にグリーンランド(緑の島)という魅力的な名前をつけ、移住者を募集した。九八五年に、およそ一

千人の男女と子供が三十五艘の船に乗ってグリーンランドへ向かったという。その中にはアイスランドで貿易を営んでいたヘルヨルフという男も混じっていた。

ヘルヨルフの息子、ビヤルネ・ヘルヨルフソンは、その頃、ノルウェーからアイスランドへ向かっていた。家へ着いてみると、グリーンランドへ来いという父からの知らせが待っていた。ヘルヨルフソンはすぐにでかけるが、グリーンランド南部を目の前にしながら、北極の強風に押し流されてしまう。霧が晴れた時、ヘルヨルフソンは西に今日のニューファンランドと思われる陸地を目にしている。これが、おそらく、ヨーロッパ人による最初のアメリカ発見であつたろう。ところが、探検家でない彼にとつて、それは何の意味もなさなかつた。

一方、赤毛のエリックが建てたグリーンランド居住地では、家を建てるための



10世紀のバイキング船。

木材が不足していた。そこでヘルヨルフソンが南西の地で森林をみたという話を聞いていたエリックの息子レイブは、ヘルヨルフソンと組んでその陸地へ向かう。一行は、平坦な石の地から森林の地へへて、ニューファンランド北端のランス・オー・メドーズ(牧草地の近くの入江)と思われるところに達した。その後、息子の成功に脅威を感じた赤毛のエリックは、レイブが発見したというピンランド(ぶどうの地)を奮い取ってそこに植民するため、トルフィン・カルセフィニというバイキング以下、およそ六〇人の男と五人の女、それにかの数の牛を送る。彼らはニューファンランド北端に二年または三年間滞在したが、インディアンやエスキモーと衝突を繰り返した後、とうとうグリーンランドへ引き揚げて行った……。ピンランドについてはいろいろな説があるが、未だに確定されていない。

ランス・オー・メドーズでは紀元一〇〇〇年頃のものと思われるバイキングの住居跡や炭焼かまど、鉄の加工品、紡錘車などが発見されているし、ケベック北部のアンガバでもバイキングの住居跡が、スベリオル湖の北にあるオンタリオ州ペアドモアでは刀などの遺品が、そして、バフィン島では十三世紀のヨーロッパ人をかたどったエスキモーの彫刻が発掘されている。さらに、一四四〇年頃のものと思われる、ノルウェー、英国、アメリカ大陸北東岸の描かれた地図も発見されている。